

3 重点戦略の実施状況

この章では、8 の「重点戦略」ごとに、令和 4 年度の主な取組の実績等を記載しています。

<本章の見方>

重点戦略の名称

京プラン 2025 から転載しています。

多様な文化を創造・発信する「世界の文化首都・京都戦略」

重点戦略の基本的な考え方

重点戦略の基本的な考え方

京プラン 2025 から転載しています。

京都が蓄積してきた有形無形の豊かな文化を継承し、それらを日々の暮らしに取り入れ、主かしながら、人々の暮らしと産業の豊かさや平和・共生社会の実現、持続可能な社会の発展のよりどころとなる多様な文化を創造・発信する。

1 文化を基軸とした新たな価値の創出・共生社会の実現

豊かな人間性を育み、質の高い経済活動を生むなど、文化がもつ多様な価値を生かし、産業や教育、福祉、まちづくり、環境などあらゆる政策分野と、ものづくりやおもてなしの心などの京都が育んできた文化が連携・融合することで、文化を基軸とした新たな価値の創出や平和・共生社会実現のための基盤づくりを進める。

2 創造的な担い手の育成・世界との交流

文化に触れる機会や文化芸術の拠点・発信機能等を充実することで、文化の継承・創造の担い手の育成・創造環境を整備するとともに、広く世界の文化を受け入れ、新たな文化を生み出す文化交流を図る。

3 優れた景観や暮らしの文化など有形無形の京都文化遺産の継承・活用・創造の好循環の創出

京町家などの趣ある都市景観、自然景観と文化的資産が一体となった歴史的風土、食文化などの暮らしの文化をはじめとした有形無形の京都文化遺産を継承するとともに、その特性に応じた活用・創造につなげる好循環を創出する。

令和 4 年度実績

重点戦略に係る令和 4 年度の主な実績を記載しています。

令和 4 年度（2022 年度）実施状況

- ① 京都アート・エコシステム推進事業
 - ・「Arts Aid KYOTO」の推進（支援件数：32 件）
 - ・「ARK (Art Rhizome KYOTO)」の開始
市内の宿泊施設等で若手芸術家等の作品の展示・販売を開始(3 月)
 - ・若手芸術家等の作品を販売するオンライン販売サイト「HAPS KYOTO」の開始
(11 月、掲載作家は順次追加)
- ② 子どもたちが文化芸術に触れる機会の創出
 - ・文化芸術授業（ようこそアーティスト）の実施（60 箇所）
 - ・伝統公演授業（ようこそ和の空間）の実施（1 日 2 公演）
- ③ 文化庁移転記念事業をめぐる「ART WALK KYOTO」
 - ・WEB サイト、リーフレット、ポスターによる「文化庁移転記念事業」の情報発信
 - ・“コア事業”として、以下の 3 事業を開催（いずれも本市共催）
ウォーホル・ウォーキング（9～2 月京都市京セラ美術館、三十三間堂ほか）
NAKED GARDEN ONE KYOTO（9～12 月二条城、市役所本庁舎、平安神宮ほか）
京都モダン建築祭（11 月市役所（正庁の間、議場）ほか）
 - ・JR 西日本アプリ「WESTER」を活用した、スタンプラリーの開催（11～1 月）

多様な文化を創造・発信する「世界の文化首都・京都戦略」

基本的な考え方

京都が蓄積してきた有形無形の豊かな文化を継承し、それらを日々の暮らしに取り入れ生かしながら、人々の暮らしと産業の豊かさや平和・共生社会の実現、持続可能な社会の発展のよりどころとなる多様な文化を創造・発信する。

1 文化を基軸とした新たな価値の創出・共生社会の実現

豊かな人間性を育み、質の高い経済活動を生むなど、文化がもつ多様な価値を生かし、産業や教育、福祉、まちづくり、環境などあらゆる政策分野と、ものづくりやおもてなしの心などの京都が育んできた文化が連携・融合することで、文化を基軸とした新たな価値の創出や平和・共生社会実現のための基盤づくりを進める。

2 創造的な担い手の育成・世界との交流

文化に触れる機会や文化芸術の拠点・発信機能等を充実することで、文化の継承・創造の担い手の育成・創造環境を整備するとともに、広く世界の文化を受け入れ、新たな文化を生み出す文化交流を図る。

3 優れた景観や暮らしの文化など有形無形の京都文化遺産の継承・活用・創造の好循環の創出

京町家などの趣ある都市景観、自然景観と文化的資産が一体となった歴史的風土、食文化などの暮らしの文化をはじめとした有形無形の京都文化遺産を継承するとともに、その特性に応じた活用・創造につなげる好循環を創出する。

令和4年度（2022年度）実施状況

① 京都アート・エコシステム推進事業

- ・「Arts Aid KYOTO」の推進（支援件数：32件）
- ・「ARK（Art Rhizome KYOTO）」の開始
市内の宿泊施設等で若手芸術家等の作品の展示・販売を開始（3月）
- ・若手芸術家等の作品を販売するオンライン販売サイト「HAPS KYOTO」の開始（11月、掲載作家は順次追加）

② 子どもたちが文化芸術に触れる機会の創出

- ・文化芸術授業（ようこそアーティスト）の実施（60箇所）
- ・伝統公演授業（ようこそ和の空間）の実施（1日2公演）

③ 文化庁移転記念事業をめぐる「ART WALK KYOTO」

- ・WEBサイト、リーフレット、ポスターによる「文化庁移転記念事業」の情報発信
- ・“コア事業”として、以下の3事業を開催（いずれも本市共催）
ウォーホル・ウォーキング（9～2月京都市京セラ美術館、三十三間堂ほか）
NAKED GARDEN ONE KYOTO（9～12月二条城、市役所本庁舎、平安神宮ほか）
京都モダン建築祭（11月市役所（正庁の間、議場）ほか）
- ・JR西日本アプリ「WESTER」を活用した、スタンプラリーの開催（11～1月）

- ④ 京の生活文化普及啓発事業 ～親子で学ぶ京料理・花街文化～
 - ・京料理 親子文化体験事業の開催（8回）
 - ・「親子で体験！京・花街の文化」花街×文化体験教室の開催（3回）
 - ・「親子で知ろう！京・花街の文化」子ども取材体験の実施（5回）
- ⑤ 京都芸大移転整備事業
 - ・新キャンパス建設工事の実施

都市環境と価値観の転換を図る「脱炭素・自然共生・循環型まちづくり戦略」

基本的な考え方

2050年までの二酸化炭素排出量「正味ゼロ」をはじめ、環境と調和した持続可能な都市文明の構築に向けて、都市環境や価値観、ライフスタイル、産業構造などの抜本的な転換を進める。

1 2050年の二酸化炭素排出量「正味ゼロ」に向けた社会の実現

二酸化炭素を排出しない建築物の普及やCASE・MaaSといった新技術・新概念を踏まえた脱炭素社会に資する交通体系の構築と利用促進、徹底した省エネの推進や地産地消など環境に配慮したライフスタイルの定着、京都市域外との連携を含めた再生可能エネルギーの飛躍的な利用拡大などの温室効果ガスの削減を図る緩和策と、気候変動による影響の軽減・防止を図る適応策を車の両輪とし、市民・事業者・地域等と一体となって脱炭素社会の構築を推進する。

2 京都の風土・文化を支える生物多様性の保全・回復

人と自然のかかわりを大切にし、森林や河川、農地、市街地にある庭園や公園など、京都の風土・文化を支え、防災・減災にもつながる生物多様性の恵み豊かな自然環境の保全・回復に取り組む。

3 ごみの出ないライフスタイル・ビジネスモデル・地域社会への転換

ものを大切にするしまつの心など先人から受け継いだ伝統を生かし、食品ロスやプラスチックごみ等の発生抑制をはじめとした2R（リデュース：発生抑制、リユース：再使用）、分別・リサイクルの徹底、再生可能資源への代替などにより、ごみの出ない循環型のライフスタイル・ビジネスモデル・地域社会へ転換する。

4 環境問題を解決するイノベーションの創出・担い手の育成

もったいない、しまつ、おかげさまといった京都人の精神性と、四季折々の自然と共生するくらしの文化やものづくり都市が育んできた技術を生かし、環境と経済の好循環を創出する産業構造へ転換し、地域・企業・大学・行政など多様な主体が連携することで、環境問題の解決に資するイノベーションを促進するとともに、持続可能な社会を構築する担い手を育成する。

令和4年度（2022年度）実施状況

- ① 2050年CO₂ゼロをめざす再エネ最大化アクション
 - ・住宅の再エネ地産地消・地域循環推進事業（「京都再エネクラブ」）
（入会者数：333件、太陽光発電設備及び蓄電池等の導入支援件数：116件）
 - ・太陽光発電プラットフォーム事業（「0円ソーラー」）
（マッチング件数：16件（家庭用：15件、事業用：1件））
 - ・太陽光発電設備共同購入事業
（参加登録件数：1,027件（京都市内：637件））
- ② 京都市脱炭素地域創出促進事業
 - ・脱炭素先行地域への選定（11月）

③ 脱炭素ライフスタイル推進事業

- ・ 京都発脱炭素ライフスタイルのビジョン等を策定（10 月）
- ・ 2050 京創ミーティングの下、事業者と連携して脱炭素型ライフスタイルへの転換を促すプロジェクトを創出・実証（8 件）
- ・ 市民ワークショップの開催（6 回）
- ・ 市民ライター養成講座の開催（3 回）

④ プラスチック製品の分別回収促進事業

- ・ 令和 5 年 4 月からのプラスチック製品の分別回収実施に向け、回収対象とするプラスチック製品の範囲及び処理体制の検討・決定
- ・ 周知チラシの配布、広報板ポスター掲示、市バス・地下鉄の広告、市民しんぶん区版挟み込み等による市民周知

⑤ 防鳥用ケージ購入助成事業

- ・ 助成件数：100 件、助成個数：115 個

京都ならではのほぐくみ文化が広がる「担い手成長支援戦略」

基本的な考え方

社会全体で人づくりを大切にする風土、自己成長できる風土が培われている京都ならではのほぐくみ文化を基礎に、すべての人に質の高い教育を提供できるよう、学校・家庭・地域の絆等を生かすとともに、大学や企業等とも連携しながら子どもから大人までみずから学び成長し、その成果を生かすことができるまちづくりを進める。

1 子どもを安心して生み育てられる環境づくり

身近な地域における子育て支援機能の充実など、子育て家庭に寄り添い、社会全体で安心して子どもを生み育てられる環境づくりを進める。

2 子ども・若者が主体的に学び合い・育ち合う環境づくり

子ども・若者が社会とのかかわりを自覚し、互いに学び合い・育ち合うなかで自己肯定感や自立心、多様性を認め合う思いやりや寛容性、心身の健康を育み、さまざまな挑戦を可能とする環境づくりを進める。

3 とくに支援を要する子ども・若者やその家庭等への切れ目ない支援・居場所づくり

貧困やDV（配偶者・パートナー等に対する暴力）、児童虐待、ひきこもり、ひとり親家庭など、とくに支援を要する子ども・若者やその家庭等に対する切れ目ない支援を充実するとともに、子育て家庭・子ども・若者の孤立防止に向け、安心できる居場所づくりや参加しやすいコミュニティづくりを進める。

4 大学・学生のまちの特性を生かした経済・文化・地域の担い手の育成

個性・特色あふれる多様な大学の意欲的な挑戦を後押しし、大学の知恵の活用や大学と地域・企業との連携、リカレント教育をはじめとする生涯学習を進めるとともに、今後の国際交流の回復と新たな展開を見据え、留学生・研究者等の誘致・定着や海外の大学、起業家との交流など大学・学生の国際化を促進することで、多様な学生がともに京都で学び、将来的にも京都で活躍する国際性豊かな環境づくりを進め、あらゆる世代にわたって京都の経済・文化・地域の担い手を育成する。

令和4年度（2022年度）実施状況

- ① 保育所等待機児童の解消
 - ・保育所等待機児童の10年連続ゼロを達成
- ② 学童クラブ事業における利用申込等 ICT 化推進事業
 - ・市内の学童クラブ事業実施施設のうち、136箇所を実施
- ③ 虐待防止のための SNS を活用した相談体制の整備
 - ・「親子のための相談 LINE」開設（2月）
 - ・相談受付件数：15件（2～3月）
- ④ 子育て支援活動いきいきセンター（つどいの広場）事業の充実
 - ・つどいの広場を新たに実施（そらひろば（上京区））（1件）

- ⑤ 成年年齢の引下げに伴う周知啓発事業
 - ・成年年齢の引下げに伴うお祝いメッセージハガキの送付等
- ⑥ 産後ケア事業における利用者負担の軽減
 - ・市民税課税世帯の減免（ショートステイ：225 件、デイケア：12 件）
 - ・市民税非課税世帯の減免（ショートステイ：57 件、デイケア：25 件）
- ⑦ 不妊治療費等助成の拡充
 - ・一般不妊治療等助成事業（治療費用の助成）の実施（移行支援分：383 件）
 - ・チラシ作成及びインターネットを活用した事業周知の実施
- ⑧ 3 歳児健康診査における目の屈折検査の導入
 - ・屈折検査の導入（7 月、実施人数：6,709 人）
- ⑨ ひとり親家庭支援の拡充
 - ・自立支援教育訓練給付金の支給（50 件）
 - ・高等職業訓練促進給付金の支給（117 件）
 - ・高等学校卒業程度認定試験合格支援事業の実施（6 件）
- ⑩ 医療的ケアが必要な児童・生徒への通学支援
 - ・利用者数：9 名、延べ送迎実施回数：142 回
- ⑪ 市立高等学校生徒への学習用端末購入に係る支援制度の創設
 - ・令和 4 年度新入生の保護者に対し、端末購入費の一部を支援する制度を実施（支給人数：526 人、支給額：12,040 千円）
- ⑫ 市図書館における電子書籍サービスの導入
 - ・電子書籍サービスを開始（2 月、選定数：3,768 点）
- ⑬ ふるさと納税を活用した大学における地域連携等推進事業
 - ・ふるさと納税を活用し大学・学生と地域の更なる連携強化を図るため、大学が実施する地域連携等の取組を助成（交付実績：3 大学）
- ⑭ 学生支援に取り組む大学応援事業
 - ・コロナ禍における原油価格・物価高騰の影響を受け、大学・学生を取り巻く状況が厳しくなる中、大学が実施・充実する学生支援の取組に対し補助（交付実績：32 大学・短期大学）

**人生１００年時代に対応する
「地域力・福祉力を高めて支え合うまちづくり戦略」**

基本的な考え方

誰一人取り残されることがないように、市民・事業者・行政相互の信頼・地域力・福祉力を高め、持続可能な福祉・医療・地域づくりを進めることで、安心・安全で生涯にわたって活躍できる支え合いのまちをつくる。

１ 多様なコミュニティの自主的・自律的な活動の促進

仕事と家庭生活の調和に加え、地域活動や社会貢献への積極的な参加を支援するとともに、京都が大切に守ってきた自治の伝統を生かし、誰もが地域活動に参加しやすくなるきっかけ・しくみづくりや、自治会・町内会をはじめ、地域にかかわる多様なコミュニティの自主的・自律的な活動を促進することにより、地域主体のまちづくりを進める。

２ 福祉と共生のまちづくり

社会的孤立状態にあるひきこもりや8050問題、セルフネグレクトなど複雑多様化する地域課題や、国籍や文化的背景の多様化、高齢者や障害のある人などの生活課題、罪を償った人の円滑な社会復帰など、さまざまな支援ニーズに対し、地域・行政・支援関係機関等による協働の取組を進めることで、互いに違いを認め合い、誰もが尊重され、地域、くらし、生きがいとともにづくり、高め合うことができる地域共生社会を構築する。

３ 健康長寿のまちづくり

フレイル・オーラルフレイル対策などの健康づくり、保健衛生・医療の充実、ボランティアや地域活動等の社会参加の促進、スポーツ等を通じた体力づくりの取組等により、これまでの経験・知識を生かし、社会における働き手・支え手として、生涯にわたって活躍できる健康長寿のまちづくりを進める。

４ 誰もが安心・安全にらせるまちづくり

犯罪抑止・交通事故防止のための環境づくりや再犯防止対策、身近な地域における防犯活動・交通安全運動の拡大等により、誰もが安心・安全にらせるまちづくりを進める。

令和４年度（2022年度）実施状況

① フレイル対策支援事業

- ・主体的に介護予防に取り組む地域住民のグループ等に対する医療専門職連携による支援を全行政区で実施
- ・支援グループ数：46 グループ（538 人）

② 介護基盤等整備助成

- ・「特別養護老人ホーム京都山科すみれ園（仮称）」、「特別養護老人ホーム京・みやこ（仮称）」の新規整備（令和４～５年度の２箇年事業）

③ 避難行動要支援者に係る個別避難計画作成推進事業

- ・個別避難計画作成に係る研修動画を公開（6月）
- ・個別避難計画作成に係るWEB配信を実施（7月）
- ・個別避難計画作成を作成（高齢者：39件、障害者：28件）

④ HPVワクチンの予防接種勧奨再開

- ・標準的な接種対象年齢に達していない小学6年生を除いた定期接種対象者及びキャッチアップ接種対象者へ個別通知を送付（82,867件）
- ・令和4年度接種実績：14,935件
（内訳）定期接種：6,114件、キャッチアップ：8,821件

⑤ 「真のワーク・ライフ・バランス」推進事業

- ・「真のワーク・ライフ・バランス」推進を目指す企業や市民に向けた総合的なポータルサイト『京都 style「真のワーク・ライフ・バランス」応援WEB』等を活用した情報発信（随時）
- ・「真のワーク・ライフ・バランス」に取り組む企業や団体等の取組をオフィス向け等の民間媒体紙において紹介（10～2月）

いのちとくらしを守り、都市の活力を支える「強靱なインフラ整備戦略」

基本的な考え方

激甚化する自然災害をはじめ、あらゆる危機にしなやかに対応し、市民のいのちとくらしを守るとともに、市民生活の豊かさの向上と多様で力強い経済・文化活動を支える強靱なインフラを構築する。

1 既存施設の機能の最大化に向けた有効活用

市民生活の安心・安全や都市の活力につながるよう、再編・統廃合等による施設量の最適化や予防的・計画的な維持管理・改修等による長寿命化、既存建築物等の流通促進など、既存施設の機能の最大化に向けた有効活用を進める。

2 いのちとくらしを守るインフラ整備

あらゆる危機に強く、市民のいのちとくらしを守るインフラ整備を進めることに加え、AI・SNS等をはじめとする先端技術・ICT（情報通信技術）インフラの活用等によって地域の防災力・安全性を高めるとともに、平時から地域のつながりを高め、京都らしさを守りながら被害を最小化し、速やかに復旧・復興するためのしくみの強化など、さまざまな危機に対応できる総合的な防災・減災対策を推進する。

3 市民生活と経済・文化活動を支えるインフラ整備

広域的な交通ネットワークの形成や、誰もが使いやすく健康や環境等にも配慮したストックへの誘導、質の高い緑の空間整備等による快適な都市環境の創出、さまざまな分野におけるデジタル化の促進など、「保全・再生・創造」をはじめとした各地域の特性を踏まえ、まちのにぎわいを高め、市民生活と多様で力強い経済・文化活動を支えるインフラ整備を進める。

令和4年度（2022年度）実施状況

① 消防指令センター共同運用に向けた基本調査

- ・本市を含む府南部9消防本部共同での基本調査の実施（4～1月）
- ・京都府南部消防指令センター共同運用検討会（本市を含む府南部9消防本部及び京都府）において、消防指令センターの共同運用について取組を進めていくことを公表（1月）

② 新たな地震被害想定の方策

- ・京都市第4次地震被害想定の方策（3月）

③ いのちを守る都市基盤防災・減災対策

- ・橋りょうの耐震補強（1橋）、老朽化修繕（76橋）
- ・緊急輸送道路等の防災対策
- ・普通河川の緊急対策、点検
- ・排水機場の老朽化修繕など

④ 雨水幹線整備等による浸水対策の推進

- ・鳥羽第3導水きょ工事（令和2～9年度）
- ・鳥丸丸太町幹線工事（令和2～6年度）
- ・伏見水環境保全センター雨水滞水池築造工事（令和2～6年度）

歩いて楽しい持続可能な都市を構築する 「土地・空間利用と都市機能配置戦略」

基本的な考え方

多様な地域がネットワークし、将来にわたってくらしやすく、訪れる人々にとっても快適で歩く楽しさにあふれた魅力を備え、活力ある産業や地域の振興を支える京都ならではの持続可能な都市を構築する。

1 くらしと産業を支える土地・空間利用の促進

公共交通や日常生活を支える施設の利便性の確保等による安心・安全で快適にくらせる居住環境の形成、産業用地・空間の確保等による産業の活性化と働く場の創出、職住共存・職住近接のまちづくりなど、都市全体の姿や持続性を見据え、市民のくらしと力強い経済を支える土地・空間利用を促進する。

2 地域の個性と魅力を生かしたまちづくり

主要な公共交通拠点を中心に都市機能の集積を図るとともに、芸術などの地域の特性を生かした拠点づくり、地域に応じたよりきめ細かな景観形成、まちづくりの担い手創出と結び付いたエリアマネジメントの推進など、都心部や周辺部等のそれぞれの特性に応じ、地域の個性と魅力を生かしたまちづくりを進める。

3 公共交通の利便性・快適性の向上

人の流れが集中する駅やバスターミナル等の交通結節機能の分散化やバリアフリー化の促進、公共交通の担い手の確保、自転車の利用環境の充実等により、誰もが安全・快適・便利に移動でき、くらしや産業を支える交通体系の構築と利用促進を図る。

4 交通に関する新技術・新概念の活用

新たな交通システムを見据えたIoTやAI、自動運転などの新技術、移動や交通をサービスとしてとらえる新概念「MaaS」の活用を推進する。

5 歩くくらしを大切にするライフスタイルの促進

安心・安全で魅力的な歩行空間の創出とともに、健康増進など歩くことの付加価値の発信等により、歩くくらしを大切にするスマートなライフスタイルの実践を促す。

令和4年度（2022年度）実施状況

① 戦略的企業誘致の推進

- ・産業観光局企業誘致推進室の設置（4月）
- ・市内初進出支援制度及びお試し立地支援制度の創設（4月）
- ・「Kyo-Working Book」の作成・配布（8月）等のビジネス拠点としての京都の魅力発信
- ・「京都市企業立地促進プロジェクト（構想）」の発表（12月）
- ・企業立地件数：47件
企業立地促進制度補助金の指定：57件（本社・工場等新增設等支援制度／京都型グローバル・ニッチ・トップ企業育成補助金：17件、市内初進出支援制度：

18 件、お試し立地支援制度：22 件）及びインキュベーション施設の新規入居等：12 件。ただし、お試し立地支援制度の件数は進出検討段階のため、企業立地件数に含まない。

- ・京都市企業立地マッチング支援制度の運用（相談件数：29 件）

② 若者・子育て世帯の移住・定住促進事業

- ・SNS を活用した住情報発信の強化

（Twitter、Instagram のアカウント開設：4 月）

- ・京都市すまいの事業者（安すまパートナー）選定支援制度の構築（12 月）
- ・市内企業・団体の従業員等を対象にしたすまいの相談会の実施（3 月）

③ 西京極総合運動公園における民間活力導入可能性の調査・検討

- ・PFI 導入可能性調査の実施（サウンディング調査、VFM 算出など）

④ 北部山間地域の持続的なまちづくり支援事業

- ・地域内のコンテンツ収集・整理及びアーカイブ化（73 件）
- ・観光プランの造成及びツアーの実施（4 件）
- ・観光事業者向けのモニターツアー（2 件）
- ・地域コンテンツ及び観光プランの情報発信

⑤ 移住サポートセンターにおける UIJ ターン促進に向けた情報発信事業

- ・移住ポータルサイト「住むなら京都（みやこ）」のリニューアル（3 月）
- ・UIJ ターン経験者の実体験等を紹介するインタビュー記事の作成・掲載（5 件）

京都の文化、知恵を生かした「社会・経済価値創造戦略」

基本的な考え方

京都に積み重ねられた芸術や伝統等の有形無形の文化を、科学技術の進展等の時流を見極めて産業に活用する知恵を生かし、国内外からさまざまな人・企業を呼び込み、社会課題の解決に向けて地域・企業・大学・行政など多様な主体が連携することで、人間らしい豊かさと新たな社会・経済価値を創造する持続可能なエコシステムを構築し、力強い経済を創出する。

1 京都を支える地域企業等の下支え

伝統産業などのものづくりや商店街、農林業、サービス産業など、市民のくらしや地域の活動、文化を支えながら成長してきた地域企業等の経営の安定・向上を図り、地域の経済力を高めるため、デジタル化の促進や金融・経営支援など、企業のニーズに即した下支えを行う。

2 雇用創出と企業立地の促進

京都の文化力を生かし、さまざまな産業を活性化することで、多様な担い手への質の高い雇用と活躍の場の提供や各世代の課題に応じた雇用促進を図るとともに、クリエイティブな人々や企業・学術研究機関等の集積・共創に向けた環境整備を進める。

3 世界に羽ばたく企業が生まれるスタートアップ・エコシステムの形成・新市場の開拓

京都が育んできた芸術や伝統産業等の技術に加え、最先端の科学技術等の活用や起業家、地域企業等の交流促進、さらには大学やアクセラレーター等との連携により、世界から起業家を受け入れるとともに、次代を担う起業家を生み、成長を促進させるスタートアップ・エコシステムを形成することで、さまざまな社会課題を解決するソーシャル・イノベーション、新たな価値を創造する次世代産業等を継続的に生み出す環境を構築し、新市場の開拓を促進する。

4 多様で柔軟な働き方の促進・生産性の向上

多様で柔軟な働き方を促進し、多様な担い手を呼び込むとともに、京都経済の担い手を育成することで、生産性の向上や安心して働きがいのある仕事や職場づくりを促進する。

令和4年度（2022年度）実施状況

① 京都中小企業担い手確保・定着支援事業

- ・学生と地域企業との交流会等の実施
(参加企業数：延べ671社、参加学生数：4,406人)
- ・京のまち企業訪問サイトでの情報発信（掲載企業数：4,053社）
- ・京のまち企業訪問サイトリニューアル（3月）

② 「食の京都」飲食店経営改善サポート事業

- ・経営改善サポートセミナーの開催（11月）
- ・個別相談・伴走支援の実施（セミナー終了後～2月）

- ③ 中小企業等のデジタル化・D Xの推進
 - ・ 中小企業デジタル化推進事業
専門家派遣の実施（7～12月、派遣企業数：154社、補助金交付件数：134件）
 - ・ 地域企業D X人材育成推進・普及啓発事業
中小企業デジタル化・D X促進マッチングフェアの開催（5月）
D X人材育成講座の実施（8～11月）
- ④ 商店街等キャッシュレス・D Xチャレンジ支援事業
 - ・ 商店街等キャッシュレス・D Xチャレンジ支援事業補助金の交付（14件）
- ⑤ 創業・イノベーション拠点創生事業
 - ・ 淳風 bizQ（旧下京図書館・元淳風小学校）入居企業の伴走支援（9社）
 - ・ スタートアップの成長支援を目的としたビジネスセミナーの開催（1月）
 - ・ 地域との交流イベントの開催（6、7、8、11月）
- ⑥ 伝統産業未来構築事業
 - ・ 新商品開発を含む商品力の向上、マーケットの拡大・販路開拓、後継者育成・技術継承に意欲的に取り組む事業を対象に支援（採択事業：14件）
 - ・ 外部講師によるセミナー及び交流会の開催（8、12月）
 - ・ 成果発表展示会の開催（3月）
- ⑦ コンテンツクリエイション京都エコシステム基盤構築事業
 - ・ コンテンツ産業支援に関わる多岐にわたる支援を行う総合支援窓口を設置するとともに、企業や大学、クリエイターの交流会や、コンテンツビジネスに役立つセミナー等を開催（実施事業数：10事業、総参加者数：491人）
 - ・ 大学等と連携したアイデアソン・ハッカソン事業を実施（実施事業数：3事業、総参加者数：92人）
- ⑧ 木の文化推進事業
 - ・ 京都市ウッド・チェンジアクション推進会議の創設（10月）
 - ・ 優良な木造・木質化建築物等の顕彰の実施（27件）
 - ・ 京都市木づかい総合窓口の設置（10月）
 - ・ 市内産木材を利用した施設の木造・木質化等を支援（49件）
 - ・ ふるさと納税型クラウドファンディングによる森林利活用に資するスタートアップの支援（5件）
- ⑨ 森林経営管理人材育成事業
 - ・ 長期的な視野で森林所有者による経営管理を支援できる人材の育成（2人）
- ⑩ 京都市中央市場施設整備
 - ・ 新水産棟Ⅱ期整備工事完了（3月オープン）
 - ・ 新青果棟実施設計着手

**市民生活の豊かさと文化の継承・創造につなげる
「観光の京都モデル構築・発信戦略」**

基本的な考え方

国内外の人々をひきつける京都の魅力を生かすことで市民生活の豊かさと地域の活性化、ひいては文化の継承・創造につなげるなど、市民生活との調和を最重要視した観光課題解決先進都市を実現する新たな京都モデルを構築・発信する。

1 市民生活との調和を最重要視し、市民の豊かさにつながる観光の実現

市民生活と観光との調和を最重要視し、一部地域における過度な混雑の再発防止など、観光の質の向上を図るとともに、観光による経済効果を市域全体に還元し、地域の文化の継承・発展と幅広い産業の発展、安定した雇用の創出等に波及させることで、市民生活の豊かさの向上につなげる。

2 MICE等の需要回復を見据えた対応

感染症の発生に備えたしくみの確立など、観光と危機管理を両立したうえで、観光需要の回復段階に応じ、国内外の人々との交流や文化の相互理解、価値観の共有を進め、平和の実現に貢献する。

3 「おもてなし」を実践する担い手の育成・環境整備

地域・大学・企業等との連携により、京都にふさわしい高度なホスピタリティを実践する担い手の育成や職としての魅力・生産性の向上を図るとともに、多言語対応、キャッシュレス化等の環境整備を推進することで、観光産業の高付加価値化を図る。

令和4年度（2022年度）実施状況

① 多様なエリアにおける魅力発信事業

- ・「とっておきの京都プロジェクト」の対象エリアにおけるイベント情報等を特設ページに集約して発信
- ・地域ならではの観光資源を活用した体験プランの造成・PR
- ・「とっておきの京都プロジェクト」実証事業の実施（6件）

② 宿泊施設等と連携した京都経済の域内循環促進事業

- ・宿泊事業者と、伝統産業製品や京都産食材、地域産木材等の市内事業者とのビジネスマッチング商談会の開催（10月）
- ・京都観光行動基準（京都観光モラル）の普及・啓発
京都在住外国人による京都観光モラル座談会の実施（10月）
京都観光モラル特設サイトの多言語化（英語、中国語（繁体字・簡体字））

③ 持続可能な京都観光を推進する優良事業者表彰

- ・持続可能な京都観光を推進する優良事業者表彰の実施（3月）

④ 観光案内DX事業

- ・「京なびオンライン」サービス開始（3月）
- ・京都総合観光案内所（京なび）ほか8箇所にタブレット端末設置（3月）